

鎌倉幕府と執権政治

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

今日の問い

鎌倉幕府は、将軍と御家人をどう結びつけ、どのように力を広げたのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 源頼朝と鎌倉幕府

幕府のしくみ

しゅご
守護

国ごとに置かれ、軍事・警察の仕事をした役職。

じとう
地頭

荘園や公領に置かれ、年貢の取り立てなどを行った役職。

ごけにん
御家人

将軍に従い、御恩と奉公の関係で結ばれた武士。

平氏をたおした源頼朝は、1185年、国ごとに軍事・警察を担う守護を、荘園や公領ごとに年貢の取り立てなどを行う地頭を置くことを朝廷に認めさせ、1192年には征夷大將軍に任命された。鎌倉を本拠とするこの武士の政権を鎌倉幕府という。

幕府は、将軍に従う武士である御家人に支えられていた。将軍は御家人の領地を保障し、手がらにに応じて新しい領地を与える御恩をほどこし、御家人は京都や鎌倉の警備や、戦いのときに命をかけて戦う奉公をつとめた。土地を仲立ちとしたこの関係を封建制度という。

関係	内容
御恩 将軍 → 御家人	御家人の領地を保障し、手がらにに応じて新しい領地を与える
奉公 御家人 → 将軍	京都や鎌倉の警備にあたり、戦いが起これば命をかけて戦う

2 執権政治と承久の乱

幕府の政治

しっけん
執権

将軍を補佐して政治の実権をにぎった地位。北条氏が代々つitted。

じょうきゅうのらん
承久の乱

1221年、後鳥羽上皇が幕府をたおそうと兵を挙げた争い。

ほうじょうまさこ
北条政子

源頼朝の妻。承久の乱で御家人に結束をよびかけた。

ごせいばいしきもく
御成敗式目

1232年、北条泰時が定めた、武士のための最初の法律。

頼朝の死後、頼朝の妻北条政子の父である北条時政が、将軍を補佐する執権という地位について実権をにぎった。源氏の将軍が3代で絶えた後も、執権の地位は北条氏が代々受け継いで政治を動かした。これを執権政治という。

1221年、朝廷の力を取り戻そうとした後鳥羽上皇が兵を挙げたが(承久の乱)、北条政子のよびかけで結束した幕府方が勝った。幕府は京都に六波羅探題を置いて朝廷を監視し、上皇方の土地に東国の御家人を地頭として置いたので、幕府の力は西国にまで広がった。1232年、執権の北条泰時は、武士のための最初の法律である御成敗式目を定めた。

問いへの答え

鎌倉幕府は、将軍が御家人の領地を保障して新しい領地を与える御恩と、御家人が警備や戦いをつとめる奉公の関係で、将軍と御家人を結びつけた。頼朝の死後は北条氏が執権として政治を動かし、承久の乱に勝って六波羅探題を置き、幕府の力を西国にまで広げた。1232年には、武士のための最初の法律である御成敗式目を定めた。

次はノートで、下線に語句を書きながら確かめよう →

